

エージェンシーの発揮に必要な資質・能力を育む
新領域「私の時間」の研究開発成果報告 

千葉県立特別支援学校流山高等学園

Chiba prefectural Nagareyama School

for Special Needs Education



山崎 慶太郎 磯村 友希子 平瀬 麻依子



内容

1. 研究開発の目的・概要
2. 新領域の開発と教育課程
3. 研究開発の成果と効果検証
4. これからの教育に向けて



01

研究開発の目的・概要





01

研究開発の目標・概要

学校教育目標

自らの夢や希望に向かって

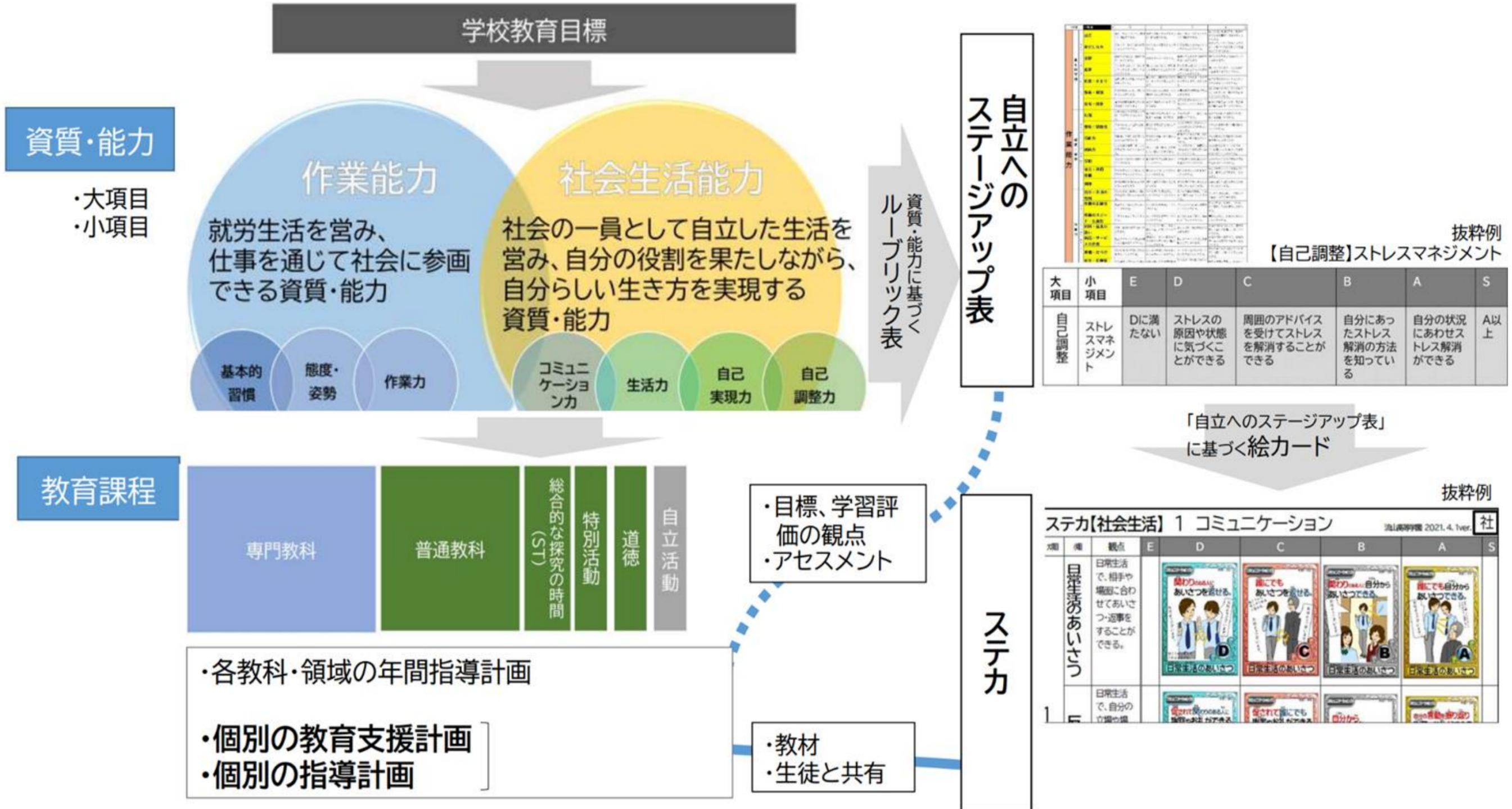
挑戦と創造を続ける生徒の育成

障害がある人の**キャリア発達支援**（自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことができる過程の支援）を重視した教育活動

教育理念は

「生活自立・職業自立・社会自立」

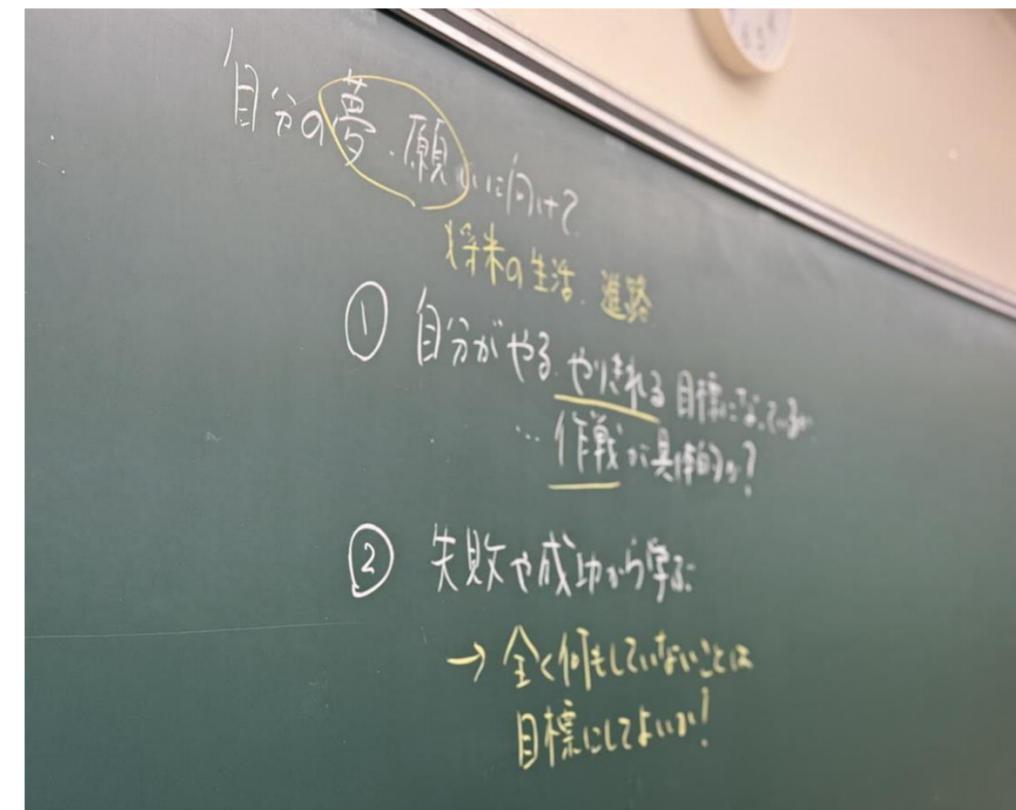
学校教育の実現を目指したカリキュラム・マネジメント



新たな研究課題

よりよい未来に向かって自分で働きかける力の育成

- ✔ これからの変化の激しい社会を生き抜くために、特別な教育ニーズを有する生徒が、自分の人生を自分で決め、行動していくためには、学校教育においてどのような資質能力を身につけるべきか、そのために必要な教育課程とは？
- ✔ これからの時代、教師に必要とされる役割は何か？



✓ エージェンシーとは (Agency)

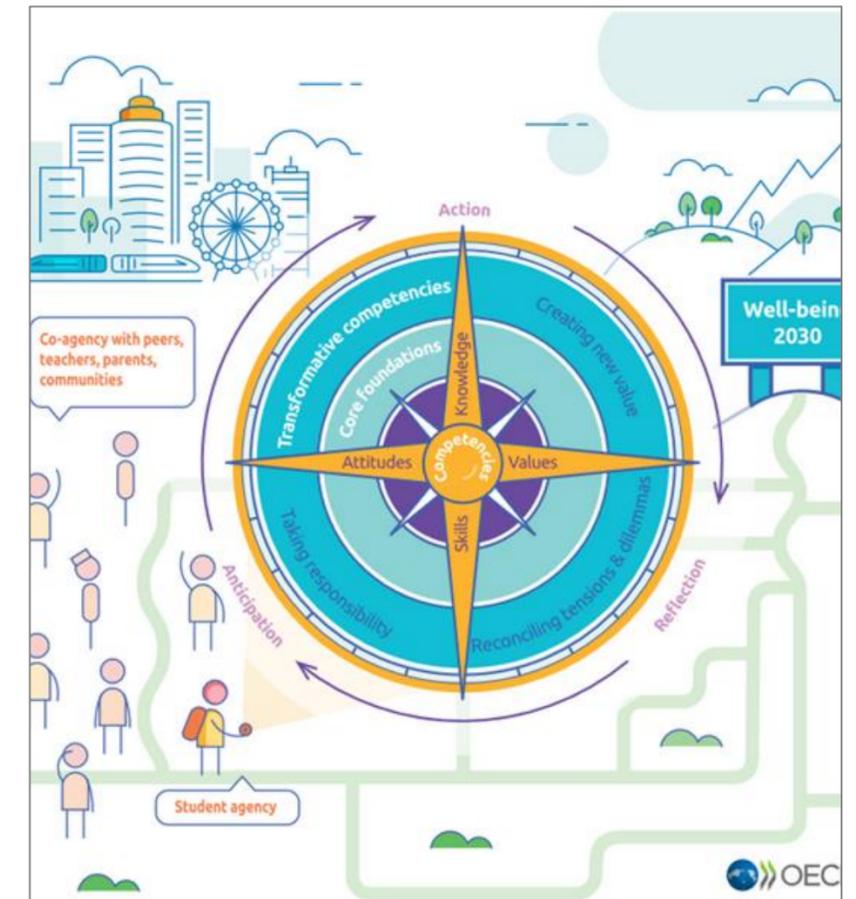
OECD Learning Compass 2030

- 変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力
(the capacity to set a goal, reflect and act responsibly to change)

流山高等学園でのエージェンシー定義

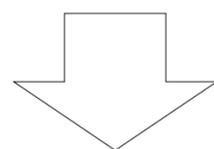
✓ 周囲との関係性を重視する主体性

多様な関係性の中で、自分を含めた対象者がよりよい状態になるために、主体性を発揮できるようになること



(出典 : The OECD Learning Compass 2030)

生徒が『学びっぱなし』、教師が『教えっぱなし』の状況にならないように、生徒自身が**主体的に目標を設定し**、振り返らなければならない



周囲との関係性を重視する主体性を発揮するために

自分を取り巻く状況を受け入れ、**他者や社会との関わりの中で**自分らしい生き方を考えて実現しようとすることができる、**系統的な学びが必要では**



既存の教科・領域ではなく、新たな領域を設置することで教育効果が見込めるのではないか

研究開発課題

特別支援教育における、変化する社会で生き抜くための資質・能力と
エージェンシーを育成する教育課程及び指導方法の研究開発

～新領域「私の時間」の実践を通して～



特例

- ①新領域「私の時間」を設置し、本校独自の育成を目指す資質・能力、新領域の目標や見方・考え方を規定
- ②教育課程に新領域を年間35単位時間程度設定
- ③新領域と既存の教科・領域との関係性を整理し、教育課程における「キャリア教育」に関する学習内容と往還できるようにする

01 研究開発の目的・概要

研究仮説

生徒が、新領域「私の時間」に取り組むことによって、エージェント性を発揮するために必要な資質・能力の獲得ができるのではないか。



研究仮説

新領域「私の時間」の「授業の有用性」と「生徒の変容」の視点から評価し、仮説検証を行う。

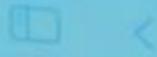
①授業の有用性

- 教師、生徒へのアンケートやインタビューによる調査

②生徒の変容

- 生徒へのアンケートやインタビュー調査
- 授業実践における事例研究

14:03 7月26日(金)



あお

流山高等学園 評価システム

ログインユーザ

対象生徒氏名：5-1-8 h

社会生活について評価を行う

【コミュニケーション力】日常生活のあいさつ

02

新領域の開発と教育課程

コミュニケーション力

E

関わりのある人に
あいさつを返せる。

D

日常生活のあいさつ

C

誰にでも
あいさつを返せる。

C

日常生活のあいさつ

B

日常生活のあいさつ

A

日常生活のあいさつ

S

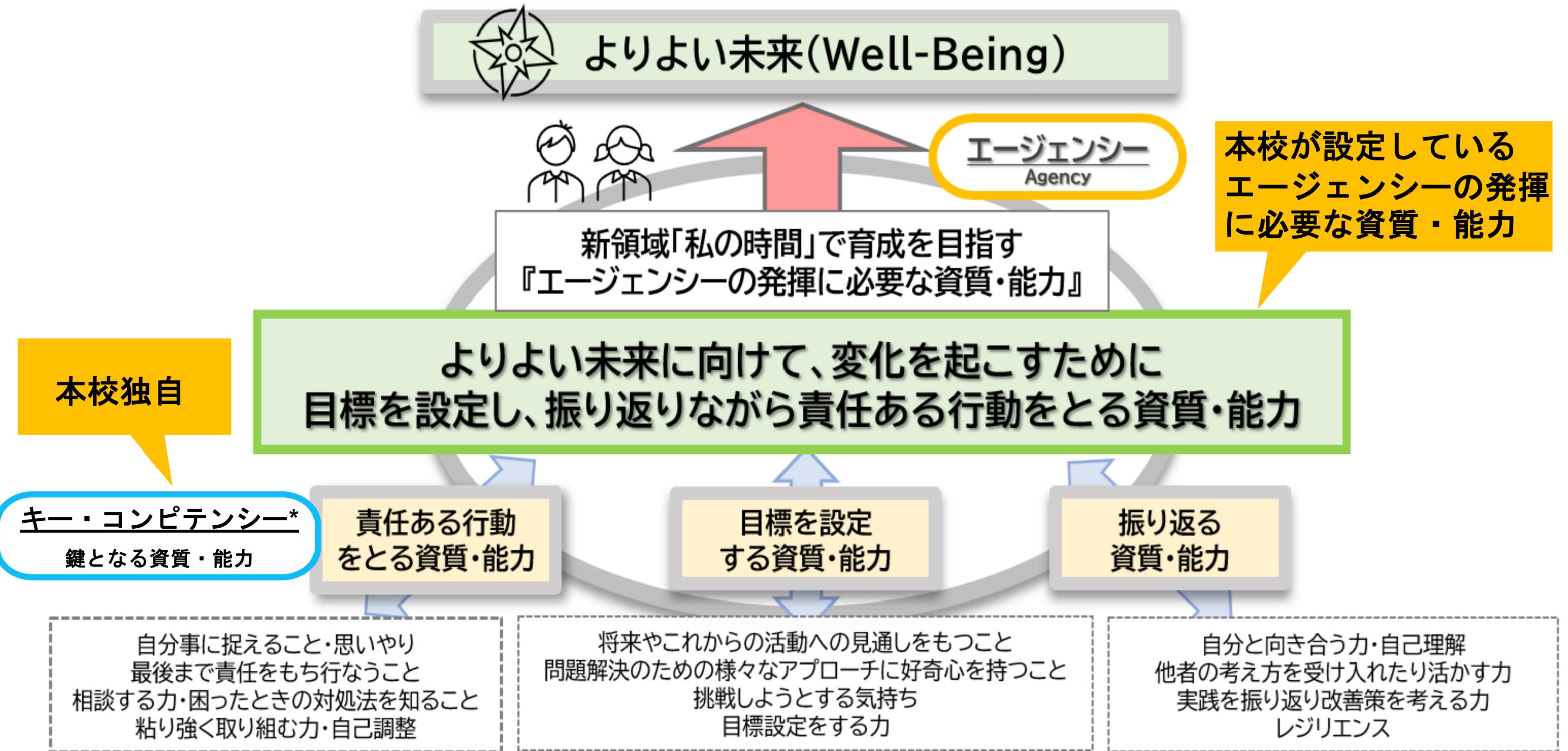
日常生活のあいさつ

メニューへ戻る

戻る



02 新領域の開発と教育課程 特例①本校独自の育成を目指す資質・能力



* 資質・能力（コンピテンシー）と混在しないように「キー・コンピテンシー」と名称をつけた

✔ 学習指導要領の示し方に倣った新領域「私の時間」の目標・内容・内容の取り扱い

第1 目標

私の時間の見方・考え方を働かせ、自分を取り巻く状況を受け入れ、他者や社会との関わりの中で自分らしい生き方を自ら考えて実践しようとする「見通し・実践・振り返り」の学習サイクルを通して、キー・コンピテンシーの育成を目指す。

私の時間における「見方・考え方」

「現在・過去・未来と自分」「周囲と自分」との関係性をもとに、自分の生き方や在り方を考え、自分の人生を自分事にしていく

02 新領域の開発と教育課程 特例①本校独自の育成を目指す資質・能力

ようこそ卒業生



先生相談会



グランドフィナーレ



三年生相談会

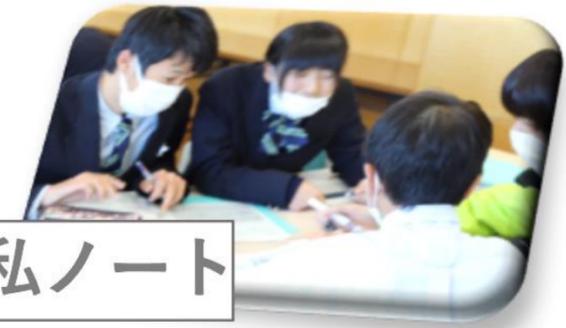


私の時間

オリエンテーション



よりよい未来に向けて、変化を起こすために
目標を設定し、振り返りながら
責任ある行動をとる力

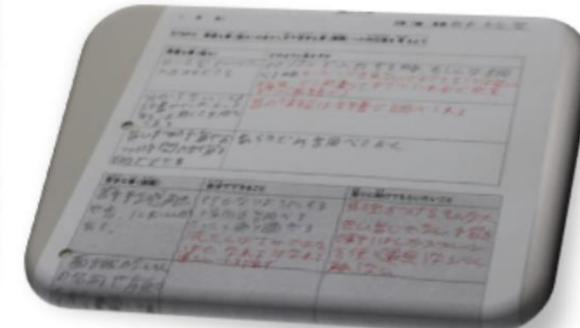


私ノート

自己分析・課題設定



振り返り



教育課程

週1回1コマ年間35単位時間

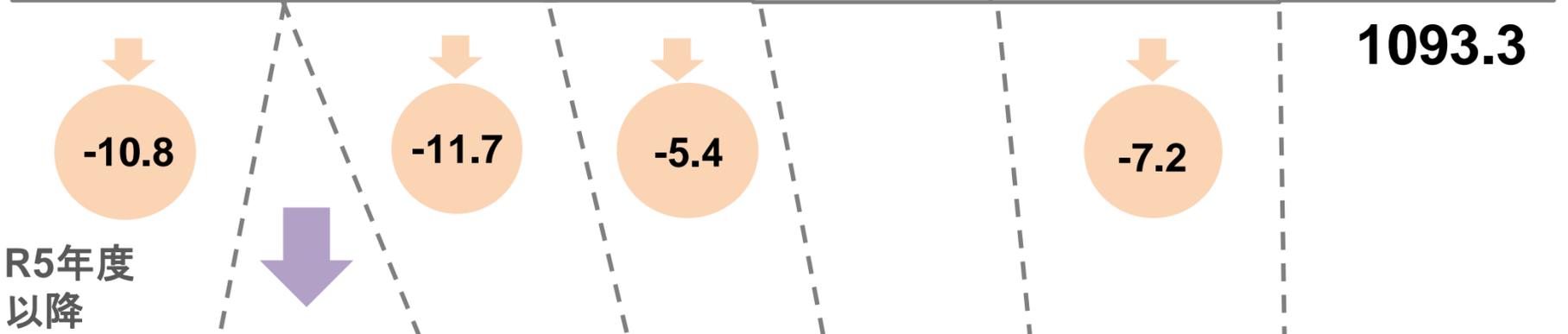
より充実した
新領域「私の時間」の実践へ

新領域「私の時間」の「実施前」と「現在」の教育課程の時数の比較 (R6)

	月	火	水	木	金
1	専門教科	私の時間	専門教科	専門教科	専門教科
2		自立活動			
3		ST/家庭			
4		家庭			
5	美術	社会	理科	情報	保健体育
6	音楽	国語	道徳	外国語	数学
7	LHR	保健体育		職業	委員会 /部活動

(日課表例：3学年福祉流通サービス科)

実施前



+35.1

1093.3

1093.3

表記の都合上、実際の縮尺とは合致しない図です

キャリア発達
の中軸・中心

専門教科

教科・領域

それぞれの
見方・考え方

私の時間

困難さの
改善・克服

自立活動

総合的な
探究の時間

問題・課題解決

- **教育ニーズを把握し**学習者主体へ
- **生徒の特性に合わせた**個別最適な学び
- **教科・領域を往還**した学習活動
- **学び合いを推進**する協働的な学び

03

研究開発の成果と効果検証



03 研究開発の成果と効果検証

新領域「私の時間」の成果

✔ 新たな学習プログラムとして新領域を具体化したこと

教育課程上（日課表）に位置付けられた3年間の系統立てたカリキュラム

これまでも実践してきた学習内容をより充実した内容にすることができた

新たな教材も開発し、学習内容の充実を図ることができた



✔ 卒業・就職のその先の人生について自分事として捉え考える学びへ

将来にわたって学び続けることができる人材を育てる中・長期的なそれぞれの

「よりよい未来」に向けて





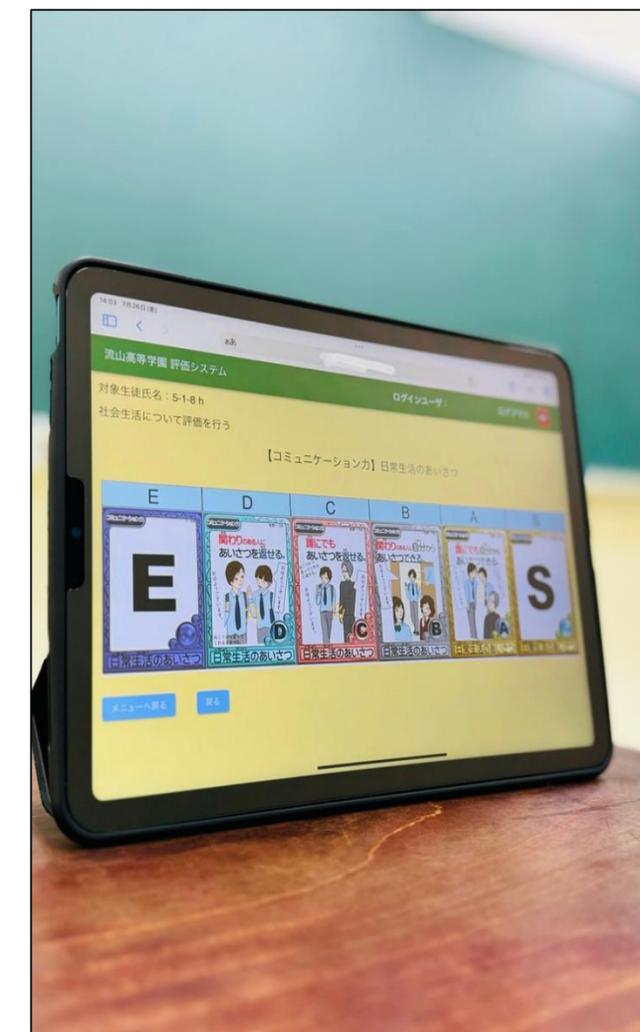
メタ認知を高め、自己分析と自己調整を促す
ICT支援ツール【Ne!カスタム】の開発

「自己評価」と「他者評価」の乖離

自分を俯瞰してみる（メタ視点）ことが難しい実態

他者の意見を受け止める力が課題

ステカを活用して自己分析し、学びを自己調整して進めていくための
ICT支援ツール「Ne!カスタム」を開発し、運用してきた。



ステカ

生徒が簡便に評価できるように、
ルーブリックを平易な言葉とイラストで表現

岡山高等学園 2018.11.7

ステージアップカード SUTECA①コミュニケーション

項目	観点	E	D	C	B	A	S
コミュニケーション力	日常生活で、相手の立場や感情に合わせてあいさつ・通話をすることができる。						
	日常生活で、自分の立場や感情、相手の立場を考慮して、挨拶やお礼ができる。						
	日常生活で、異文化理解を深めたり、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたりすることができる。						
	日常生活で、自分の立場や感情、相手の立場を考慮して、適切な言葉づかいをすることができる。						
	思いやり						

岡山高等学園 2018.11.7

ステージアップカード SUTECA②生活力

項目	観点	E	D	C	B	A	S
生活力	読書を通して、情報を調べたり、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたりすることができる。						
	数値的なものごとについて理解し、活用することができる。						
	身の回りの事業を活用し、よりよい社会生活を送ることができる。						
	状況に合わせて、よりよい社会生活を営むことができる。						
	情報活用能力						

岡山高等学園 2018.11.7

ステージアップカード SUTECA③自己実現力

項目	観点	E	D	C	B	A	S
自己実現力	得意にも意欲や好奇心をもって取り組むことができる。						
	多様な考え方を理解し受け入れ、生活に生かすことができる。						
	将来について思い描く夢や目標をもって、計画し生活することができる。						
	課題に対して、解決する方策や意欲を持って実行することができる。						
	課題を解決する						
	余暇を充実させる						

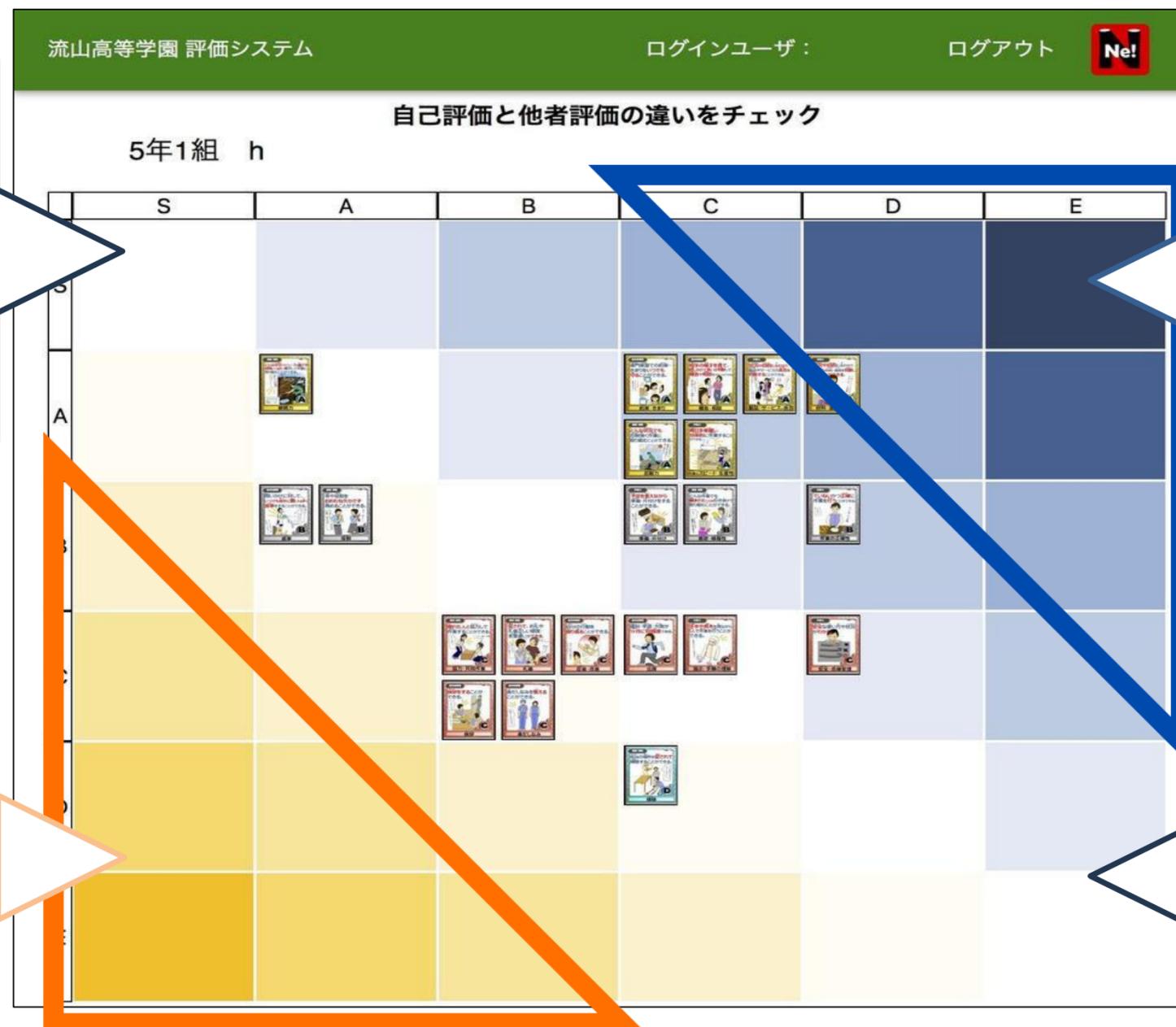
岡山高等学園 2018.11.7

ステージアップカード SUTECA④自己調整力

項目	観点	E	D	C	B	A	S
自己調整力	自分の得意なことや不得意なことや行動の特徴を理解し、人に伝えることができる。						
	積極的な感情をコントロールすることができる。						
	自分の立場や状況を理解し、他者や社会の基準にあわせることができる。						
	自分の体調を把握して、適切な判断をすることができる。						
	健康管理						
	ストレスマネジメント						

✔ メタ視点から自分を視る【マトリクス】 ⇒ 特別な教育ニーズのある生徒の自己分析

自己評価と他者評価
があっている
+ 評価が高い
↓
メタ認知の高まり
教師の評価に「合わせる」こと
をしていないか



自己評価が高い
他者評価が低い
↓
自己を過大評価傾向
的確に課題を捉えられて
いない・難しい

自己評価が低く
他者評価が高い
↓
自己効力感が低い
的確に課題を捉えられて
いない・難しい

自己評価と他者評価
があっている
+ 評価が低い
↓
適切な個別支援が必要

✔ ステップアップの作戦を考える【目標設定】 ⇒ 自分の学びを自己調整

流山高等学園 評価システム		ログインユーザ:	
目標設定シート【作業能力】 5年1組 h			
NO.	こうもく項目		
いまのじぶん	なりたいた	【さくせん】どのばめんでとりくむ?	【さくせん】どのようにとりくむ?
今の自分	なりたいた	【作戦】どの場面で取り組む?	【作戦】どのように取り組む?
【基本的習慣】身だしなみ			
C	A	 <p>身だしなみを整えることができる。</p>	 <p>清潔かつ、TPOにあわせた身だしなみを整えることができる。</p>
		専門教科が始まる前の準備時間に	鏡を見て、服装が整っているか確認する。また、友達にもチェックをしてもらう。
【態度・姿勢】協力・共同作業			
C	B	 <p>慣れた人と協力して作業することができる。</p>	 <p>誰とも協力して作業することができる。</p>
		教室清掃の仕事をするとき	机を動かすとき等。仲間がペアになっているか確認し、1人の場合は手伝うようにする。
【態度・姿勢】掃除			
D	B	 <p>担当の場所を促されて掃除することができる。</p>	 <p>担当の場所以外もすすんで掃除することができる。</p>
		専門の後片付けの時	自分の担当場所の掃除が終わったら、他に掃除が必要な場所を仲間に聞くようにする。

STEP1

なりたいたステカを自分で選択

STEP 2

具体的な実践場面を設定

(専門教科、普通教科、行事etc)

STEP 3

具体的な課題解決のための

方策を考える

導入

①「なりたい自分」になるための道筋をイメージしよう



自己分析

②自分自身を見つめなおそう



ICT補助教材「Ne!クスト」



自己評価の様子

③自分自身のことを知ろう



自己評価



他者評価



自己評価と他者評価の違い

課題設定

④これからの計画を立てよう



私の成長計画

⑤他者の意見を尊重し、必要ならば、自分の考えに取り入れよう

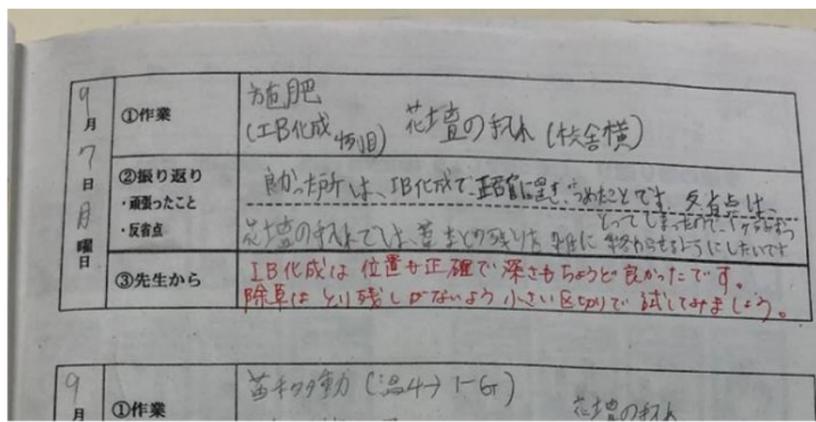
自分で目標を設定し
達成するために学校生活で
どう学んでいくか計画

学習者主体の学びとし、教育ニーズを把握しながらそれぞれの教科を往還する

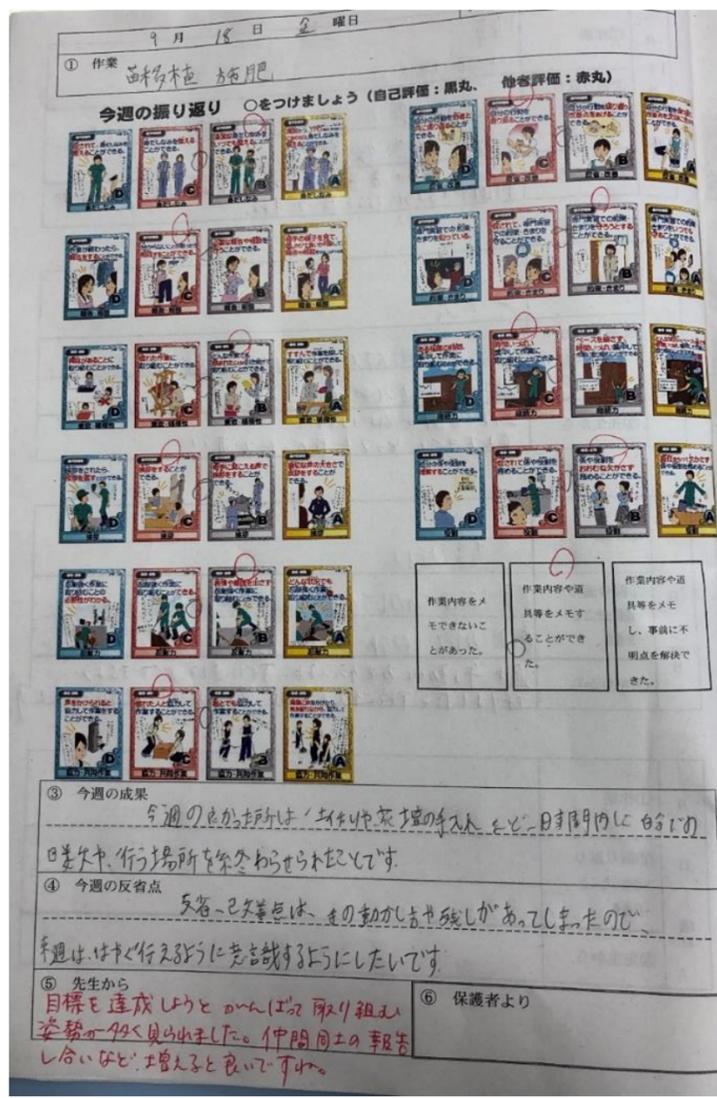
専門教科 園芸コース の実践

- ①活動に基づく振り返り
 - ・実習日誌（毎日）
 - ・週のまとめ（週末）
- ②自分自身の目標への振り返り
 - ・ステカチェック表（毎日）
 - ・ステカ振り返り（15日に1回）

【実習日誌】
 ・1週間の活動における成果と課題を振り返り、テキストで記述。



【週のまとめ】
 ・1週間の活動における成果と課題を振り返り、テキストで記述。
 ・ステカで自己と他者の両方から評価（自己評価：黒、他者評価：赤）



【ステカチェック表】
 ・「私の時間」で立てた目標シートを見ながら、毎日達成できたかを確認。
 ・自分の目標を担当の先生と確認し、作業後に自己評価と他者評価を○か×で書き込む。
 ・その際には、「なぜ○かなぜ×か」を話し合うことで自己理解の深まりをねらっている。

（エピソード）
 この生徒は、最初「S」を目指していた。
 →「考えと行動が伴わず○がつかない」
 →「どんな行動がSか」を考える
 →ABCDのステカを振り返ってみたら、「自分の目標はBかも」だと気づく
 →次は「B」を目標と変更し、次の作戦を考えた

【ステカチェック表に基づく振り返り】
 ・授業実施15日に1回、自身の目標の振り返りを行う。その際、目標を「継続・変更」かの判断と、テキストでの振り返りと今後の抱負の記入を行う。
 ・本人がどのような考えなのかを教員が見取れるようにしている。“○が何個ついたから次のステカに変更”などという決まりはない。
 「自分はできてると思ったけど、AよりB位だったら○がつくのもかもしれない。」「×が多いけど、どうしてもAの目標ができるようになりたいのでAのまま継続します。」など理由は様々である。

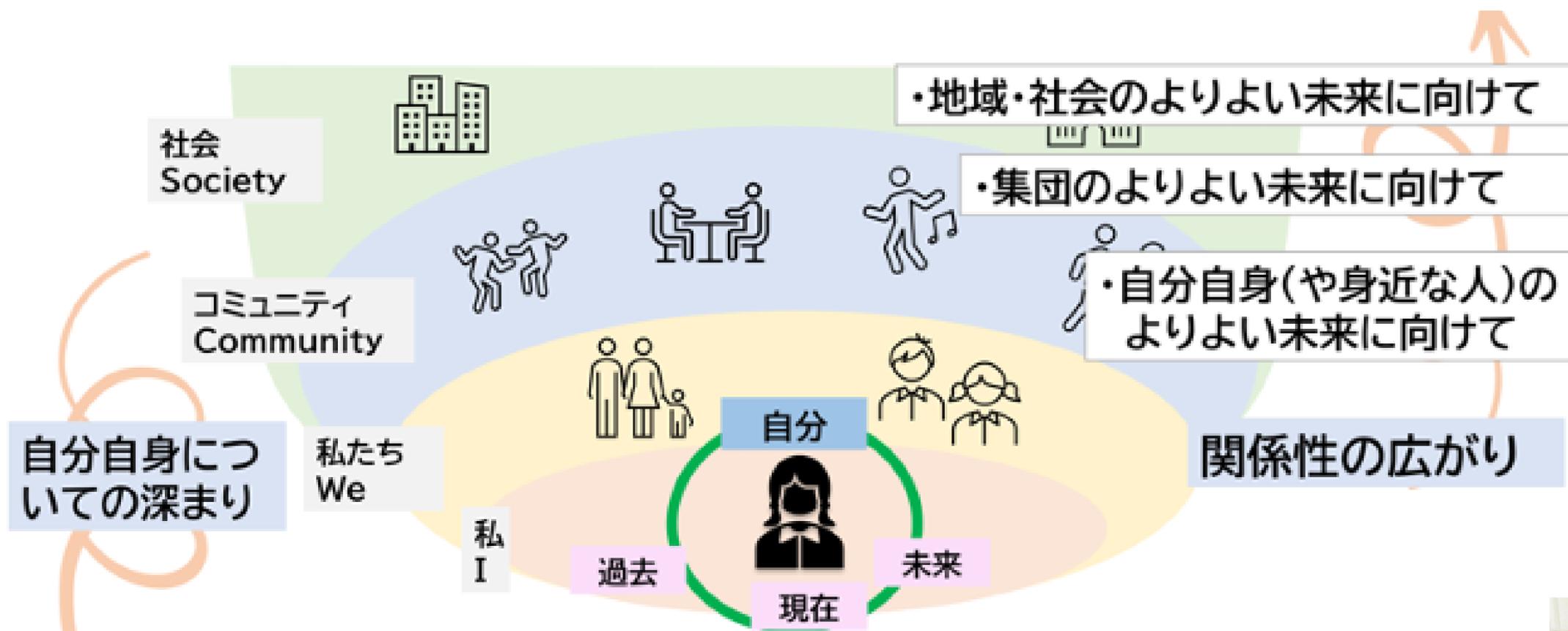
日付	自己評価	他者評価									
9/16	X	X	9/17	X	X	9/18	X	X	9/19	X	X
9/20	X	X	9/21	X	X	9/22	X	X	9/23	X	X
9/24	X	X	9/25	X	X	9/26	X	X	9/27	X	X
9/28	X	X	9/29	X	X	9/30	X	X	10/1	X	X
10/2	X	X	10/3	X	X	10/4	X	X	10/5	X	X
10/6	X	X	10/7	X	X	10/8	X	X	10/9	X	X
10/10	X	X	10/11	X	X	10/12	X	X	10/13	X	X
10/14	X	X	10/15	X	X	10/16	X	X	10/17	X	X
10/18	X	X	10/19	X	X	10/20	X	X	10/21	X	X
10/22	X	X	10/23	X	X	10/24	X	X	10/25	X	X
10/26	X	X	10/27	X	X	10/28	X	X	10/29	X	X
10/30	X	X	10/31	X	X	11/1	X	X	11/2	X	X
11/3	X	X	11/4	X	X	11/5	X	X	11/6	X	X
11/7	X	X	11/8	X	X	11/9	X	X	11/10	X	X
11/11	X	X	11/12	X	X	11/13	X	X	11/14	X	X
11/15	X	X	11/16	X	X	11/17	X	X	11/18	X	X
11/19	X	X	11/20	X	X	11/21	X	X	11/22	X	X
11/23	X	X	11/24	X	X	11/25	X	X	11/26	X	X
11/27	X	X	11/28	X	X	11/29	X	X	11/30	X	X
12/1	X	X	12/2	X	X	12/3	X	X	12/4	X	X
12/5	X	X	12/6	X	X	12/7	X	X	12/8	X	X
12/9	X	X	12/10	X	X	12/11	X	X	12/12	X	X
12/13	X	X	12/14	X	X	12/15	X	X	12/16	X	X
12/17	X	X	12/18	X	X	12/19	X	X	12/20	X	X
12/21	X	X	12/22	X	X	12/23	X	X	12/24	X	X
12/25	X	X	12/26	X	X	12/27	X	X	12/28	X	X
12/29	X	X	12/30	X	X	12/31	X	X	1/1	X	X

継続・変更	継続・変更	継続・変更	継続・変更	継続・変更	継続・変更
この目標は達成できているので継続します。	この目標は達成できていないので変更します。	この目標は達成できているので継続します。	この目標は達成できていないので変更します。	この目標は達成できているので継続します。	この目標は達成できていないので変更します。

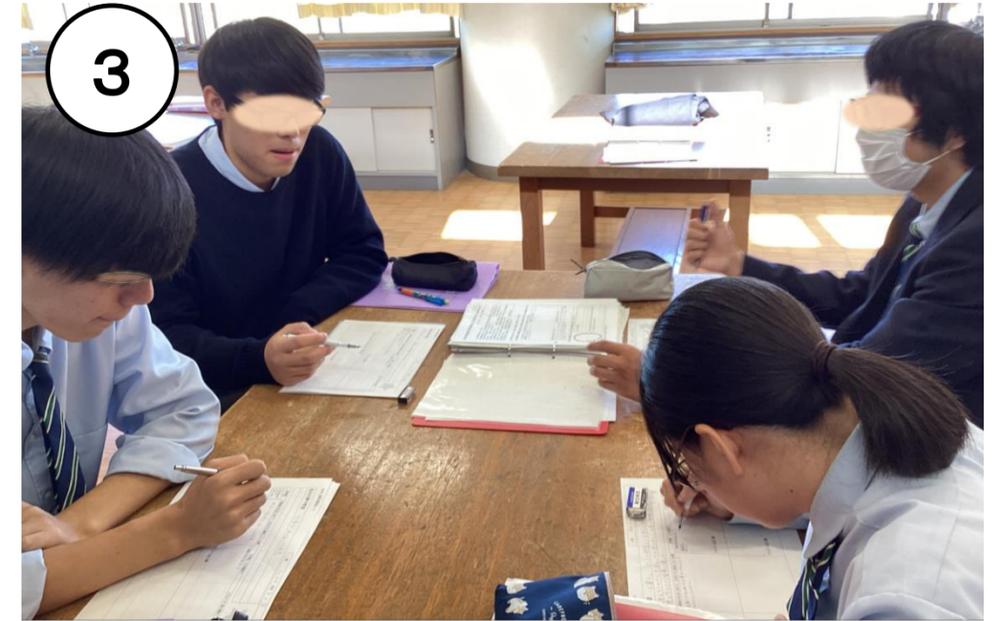
①これまでの自己評価と他者評価を振り返り、目標を継続するか変更するか検討しましょう。
 ②目標とするステカを切り取り、ステカチェック表に貼り付けましょう。



生徒は自分自身の理解を深めながら、関係性の広がりの中で学び合いを経験していく。こうした学びを通して、自分と関わる周囲との人たちにとっての「よりよい未来」を考えていけるようにしていくことで、さらに自分自身の深まりにつなげていく。



- ① 日々の振り返り（自分自身）
- ② 先生相談会（身近な大人と）
- ③ 仲間との相談会（同学年と）
- ④ 3年生相談会（異学年と）



1 日の予定		今日の自分	
教科	連絡事項 持ち物等	絶対調 (😊) まあまあ (😐) 微妙 (😓) つらい (😞)	体の状態
1 自話			体の状態 休日は良好 (😊)
2 下			
3 家庭	家庭		心の状態 とても楽しい オーとする (😊)
4 おまじない			
5 数学			
6 音楽			
7 王早料			
部活動	明日の提出物等	「私の時間」振り返り 今日11:45から12:15の講義の先生にお願いをするまでかかった。	
あり		クラスで取り組むステカ	
なし			



発揮の場

～周囲の関係性を重視した専門教科～

昨日までやったことは...
明日からは～だから...

これからやらないといけな
いことは...

作業内容記録表

今後の作業

- ・苗移植
- ・施肥(2回)
- ・ポト土入れ
- ・土のポト運び
- ・増し土
- ・花壇の作り直し
- ・除草(2回)
- ・播種(ポト)
- ・水やり
- ・苗移動
- ・夜肥(1/4)
- ・工作

今日! 10時までに到着予定

- ポト ミックス 960P
- ポト ビンケルモリ 320P
- サイバク サラシタス 192P

到着済み

- ポト ミックス 270P
- ドライアイス収穫
- 落葉時
- 着払い(坂道)
- 苔とり

何やら重要そうな情報が書かれています...

9:05~9:20 個人
9:20~9:35 7人
9:35~ 報告

情報から見通しへ

ホワイトボード

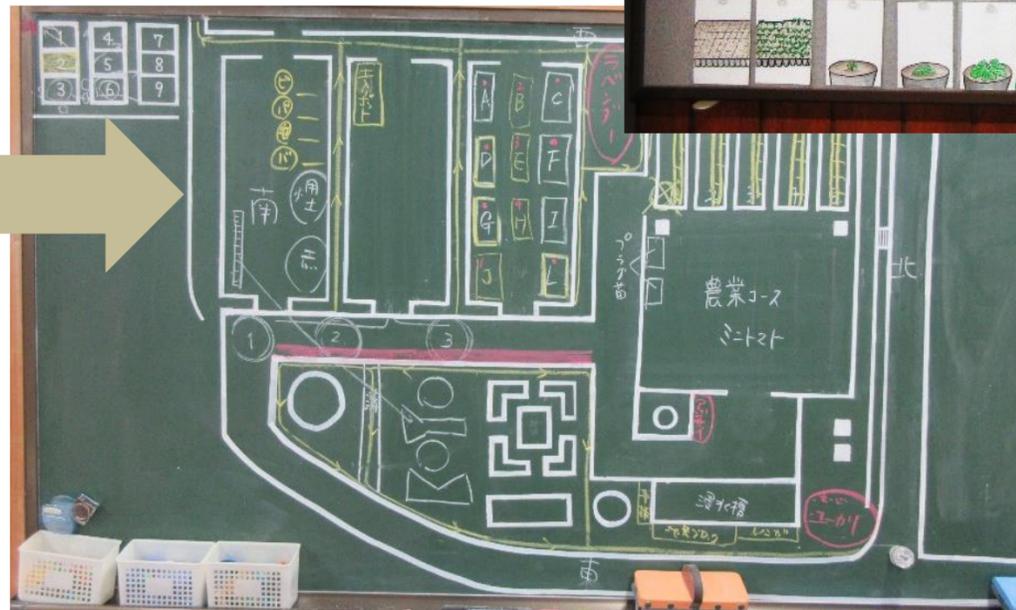
年間予定表

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

春夏の花

秋の花

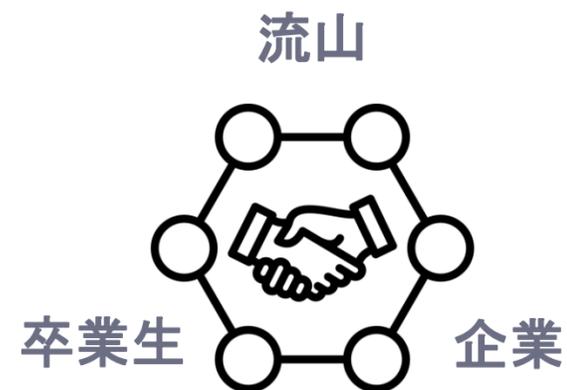
年間予定表





「ようこそ!卒業生」(R3~R6)

卒業生のお話を聞いて自分の今後に生かす



卒業生にとっての意義

- ・ 所属企業の代表として責任をもって講話をする
- ・ 自分の経験をもとに後輩の悩みに寄り添う
- ・ 後輩の前で話す機会を経験しさらに自分を磨く

在校生にとっての意義

- ・ 課題解決のために先輩の考えや経験を参考にする
- ・ 人の役に立ちたい、貢献したいという気持ちを育む
- ・ 先輩の姿をロールモデルとし自分の将来を疑似体験する

互恵的な関係

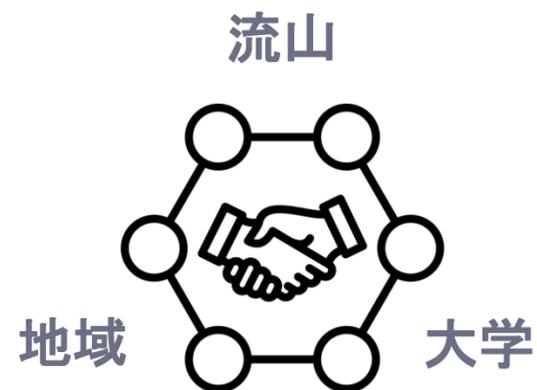
協働的な学び

開かれた教育課程





生活技術科「地域交流」(R5~R6)



STEP.1

保育園との「エプロンプロジェクト」始動

製品作りの強みと働く力を活かして地域貢献を目指す



STEP.2

実践の振り返りをもとにステークホルダーと繋がる

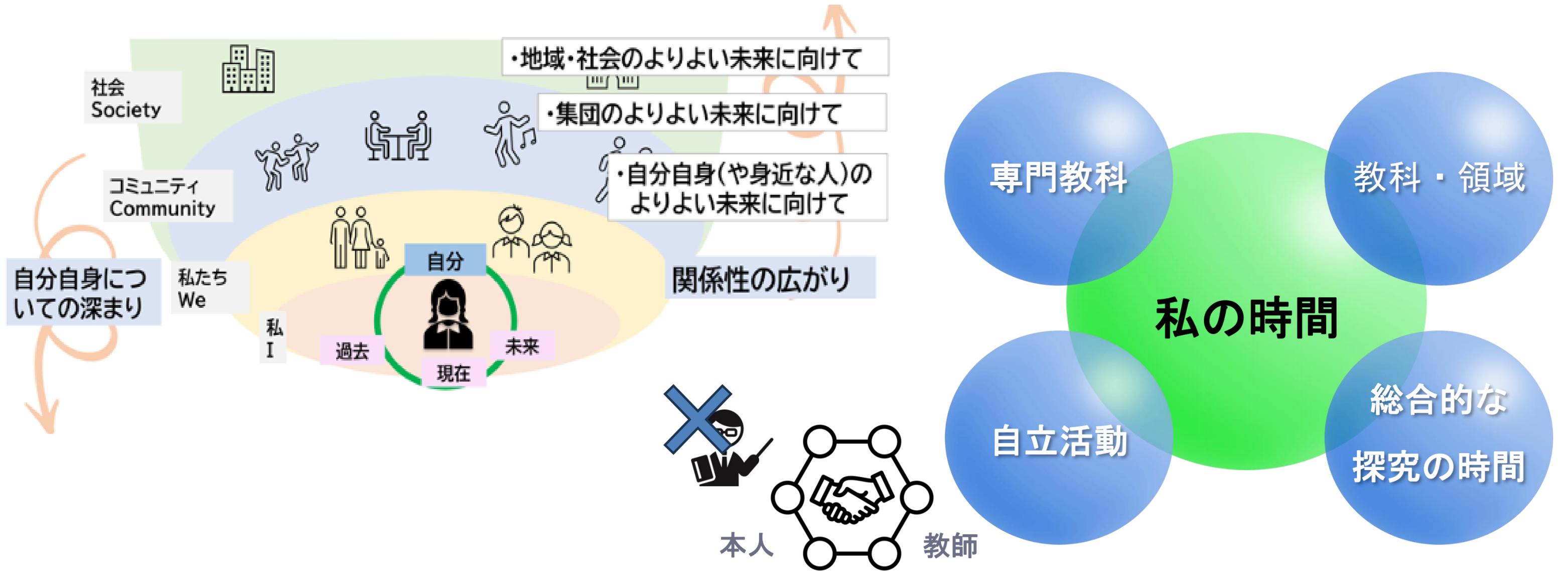
近隣大学の先生と学生に「園児と関わるコツ」を学ぶ



STEP.3

学びを活かして再度、保育園児と関わる

園児との関りにて専門家から学んだ知識やスキルを発揮する



AARサイクルでの振り返りをもとに、自分自身の見通しや調整をつけながら
学びを進めていこうとすることができる
教師はファシリテーターとして、学びの状況や目標を確認する

✓ 教師に必要な資質・能力と専門性 (流山オリジナルver)



教師の役割と資質

エージェンシーの発揮に向けて、教師はどう関わるか



Key Word
ファシリテーター

① 信頼関係とリラックスした環境

生徒が安心して自己表現できる雰囲気づくり

② 生徒の声を重視する姿勢

生徒の意見を受け入れ、尊重し、やる気を引き出す

③ 生徒が自己肯定感を実感できる支援

生徒が自分自身を肯定し、自己実現できるような支援

④ 対等な関係の構築と対話の促進

対等な立場で考え話し合い、自己発見・表現を支援

⑤ 目標設定と振り返りの重視

目標を共有し、道筋を考え、振り返りを通じて学びを促進

⑥ 外部資源や地域との連携

地域や企業との協働で興味関心にあった学びを提供

⑦ 自分自身（教師）の成長

教師エージェンシー・教師のウェルビーイング

生徒と同じ
目線に立つ

否定的な言葉
使わない

生徒の学びの
価値付け

意見を否定せ
ず受け入れる

モチベーション
の向上を

卒業生や
企業と連携

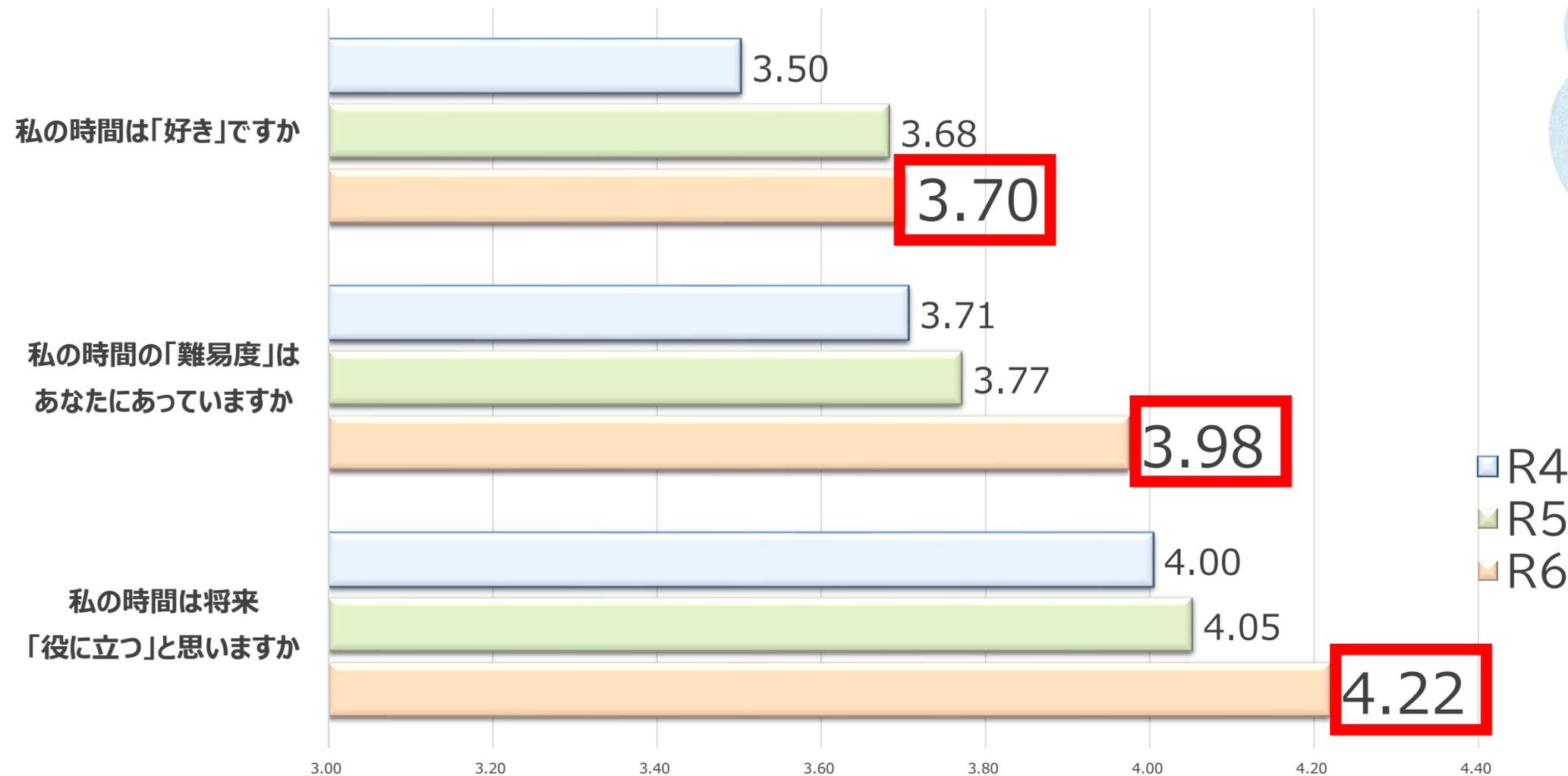
研究・研修
の充実

生徒向け

1 生徒にとって意義のある学びになったのか

学校の授業に関する意識調査アンケート (R4~R6前期実施分比較)

研究開発が進むにつれて、生徒の回答が肯定的なものに変化



R5からR6にかけて
数値の変化が大きい
授業改善の効果か

(n=246)
(n=249)
(n=245)

R4
R5
R6

1 生徒にとって意義のある学びになったのか

生徒向け

学校の授業に関する意識調査アンケート (R5・R6前期実施分比較)

Q 「流山高等学園の授業の中で、自分の生き方を深く考えることに繋がる教科は？」

n=245	R5 後期	R6 前期	R6 後期
1位	専門教科 (23.3%)	職業 (22.5%)	私の時間 (23.9%)
2位	私の時間 (21.6%)	専門教科 (20.0%)	専門教科 職業 (同率20.2%)
3位	職業 (17.2%)	私の時間 (19.2%)	

本校の特色でもある「職業」「専門教科」「私の時間」この3つの教科・領域が上位に挙げられた

1 生徒にとって意義のある学びになったのか

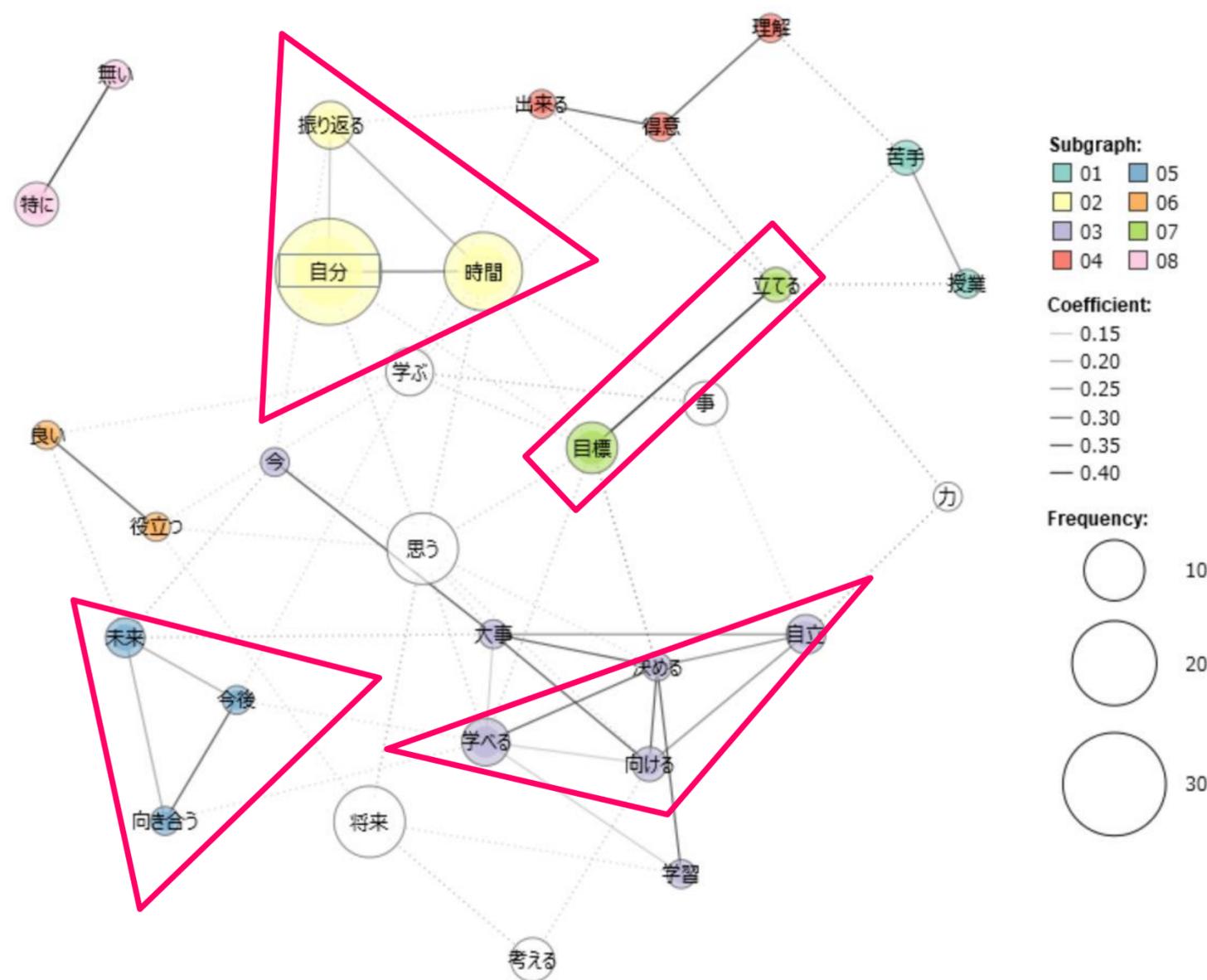
生徒向け

3年生

(n=75)

学校の授業に関する意識調査アンケート (R6後期実施)

Q 「私の時間はどんなことが学べる時間だと思いますか？」 (KH Coderによる分析)



頻出単語

- ①自分
- ②時間
- ③振り返る

「自分-振り返る-時間」 「目標-立てる-決める」
「今後-未来-向き合う」 「自立-向ける-決める」

キー・コンピテンシーが表れてきている

生徒が私の時間の意義や目的を理解し
学びを通して資質・能力の育成に繋げている

2 キー・コンピテンシーは育成できたのか

第3回校内研修会グループワーク

(R6.7.29)



MISSION

エージェンシーを発揮している姿について考える

キー・コンピテンシーの構成要素が具体的な学習場面となって挙げられる

教師が資質・能力を発揮している姿を見取れるようになったことと

実際に生徒が獲得した資質・能力を発揮している姿が見られていることがわかった

目標を設定する力

- 専門が始まる前に実習室に来て作業の準備を行う様子
(将来やこれからの活動に見通しを持つこと)
- 資格取得に挑戦する姿
(挑戦しようとする気持ち)

責任ある行動をとる力

- 販売会をよりよいものにしようと話し合い、ポップを作ったり、破損している製品を修復する姿
(最後まで責任を持ち行うこと)
- 自分の実習先を自分で希望すること。マイナスな評価でも打ち勝とうとする姿
(自分ごとに捉えること)

振り返る力

- カフェ営業の反省会で、生徒が改善点について話し合い、その準備まで行なった。
(実践を振り返り改善策を考える姿)
- 営業日の振り返りで積極的に意見を出し合い、意見をまとめている。そして次の営業日にいかせている。
(他者の考えを受け入れ活かす力)

生徒向け

3年生

3 エージェンシーの発揮に繋がる学びになったのか

流山高等学園版「18歳意識調査」 (R6.11月実施)

肯定的な回答 (そう思う・どちらかといえばそう思う) をした群の比較

✔ がついている項目は、日本の平均と10P以上差のある項目 (n=77)

	①将来の夢を持っている	②自分の人生には目標や方向性がありますか	③自分のしていることは、目的や意味があると思いますか	④自分には誇れる個性があると思いますか
流山	79.3	76.7	80.6	61.1
日本	60.1	63.2	62.8	53.5
アメリカ	84.7	78	78	81.1
イギリス	82	72.9	72.9	75.4
中国	88.2	90.2	90.2	84.8
韓国	73.5	74.2	74.2	65.6
インド	88.4	83.9	83.9	83.9

3 エージェンシーの発揮に繋がる学びになったのか

生徒向け

3年生

流山高等学園版「18歳意識調査」 (R6.11月実施)

肯定的な回答 (そう思う・どちらかといえばそう思う) をした群の比較

✔ がついている項目は、日本の平均と10P以上差のある項目 (n=77)

		⑤自分は他人から必要とされていると思いますか	⑥目標を立てて、何かを達成した経験がありますか	⑦勉強、仕事、趣味など、何か夢中になれることがありますか	⑧日々の生活は楽しいと思いますか
流山	1	62.4	79.3 ✔	87 ✔	80.6 ✔
	日本	56.8	68.9	71.3	66.9
アメリカ	3	73	82.9	85.2	75
イギリス	4	71.5	80.9	82.7	68.6
中国	5	85.8	89	90.2	84.6
韓国	6	70.1	78.3	77.6	65.8
インド	7	70.2	83.9	87.2	77.8

3 エージェンシーの発揮に繋がる学びになったのか

生徒向け

3年生

流山高等学園版「18歳意識調査」 (R6.11月実施)

肯定的な回答 (そう思う・どちらかといえばそう思う) をした群の比較

✔ がついている項目は、日本の平均と10P以上差のある項目 (n=77)

	①自分は大人だと思えますか	②自分は社会の役に立てると思えますか	③自分の行動で国や社会を変えられると思えますか	④自分は責任がある社会の一員だと思えますか。
流山	58.5	68.9	35.1 ✔	70.2
日本	49.6	64.3	45.8	61.1
アメリカ	76.6	78.4	65.5	79.4
イギリス	75.8	77.7	56.1	80.7
中国	90	93.6	83.7	92.1
韓国	54.8	71.1	60.8	74.5
インド	81.7	85.9	80.6	86.8

3 エージェンシーの発揮に繋がる学びになったのか

生徒向け

3年生

2024(n=77)

2019(n=80)

流山高等学園版「18歳意識調査」

私の時間が設置されていなかった（2019）時期との比較

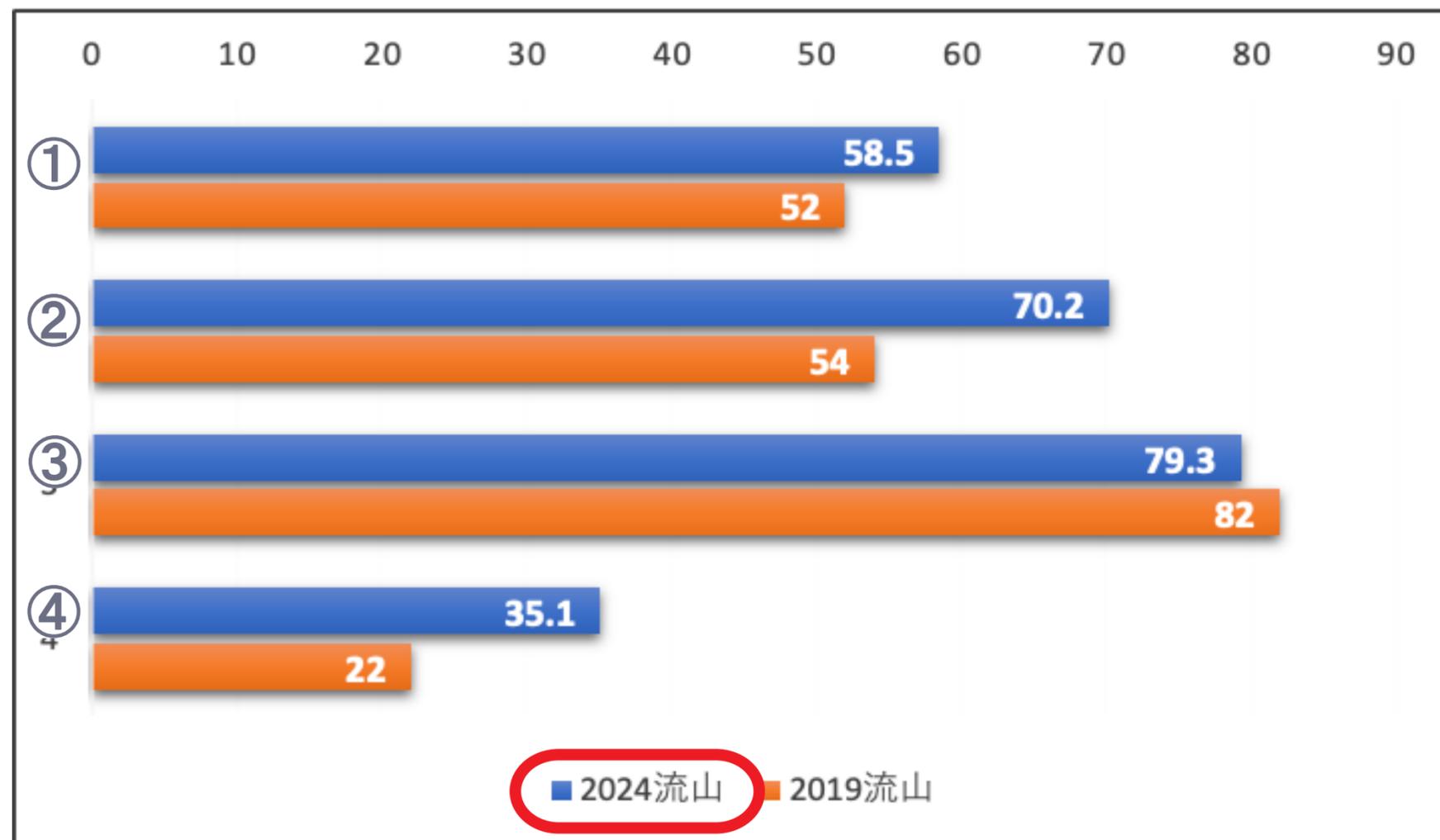
①自分を大人だと思う



②自分は責任がある社会の一員だと思う

③将来の夢を持っている

④自分で国や社会を変えられると思う



生徒向け

3年生

3 エージェンシーの発揮に繋がる学びになったのか

3年生へのインタビュー調査 (R6.3月実施)

インタビュー内容から、学生時代においても、それぞれの関係性の中でエージェンシーを
発揮しようとする姿があることがわかった。

➤ エージェンシーは社会に出てからのみ発揮されるものではなく
学校生活の中においても発揮されているのではないか。



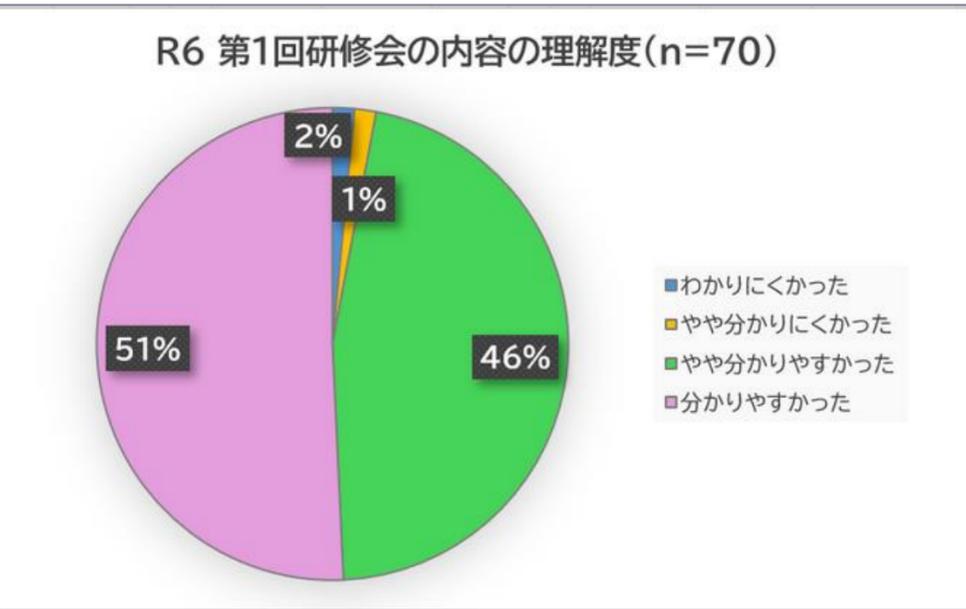
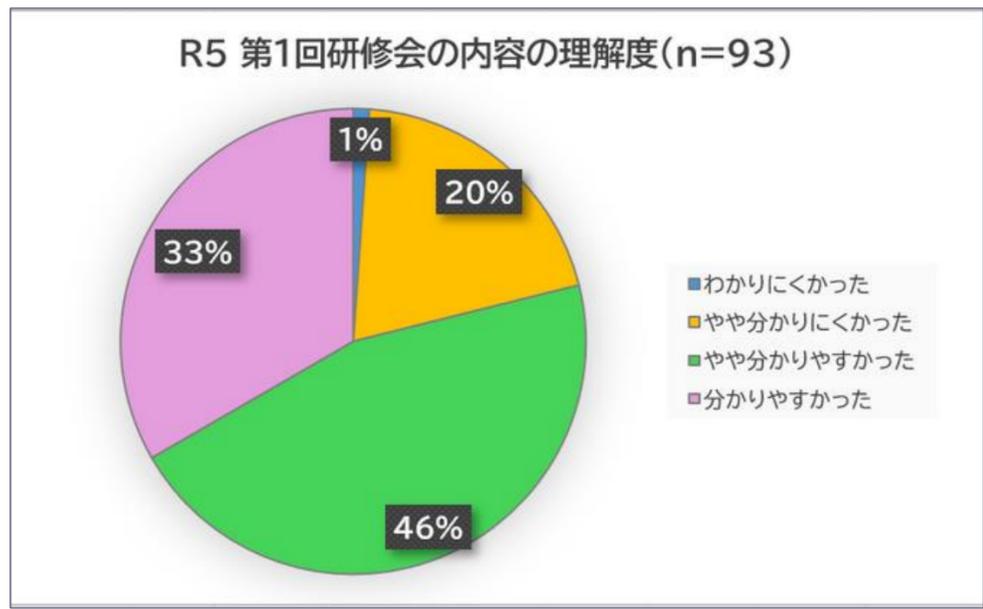
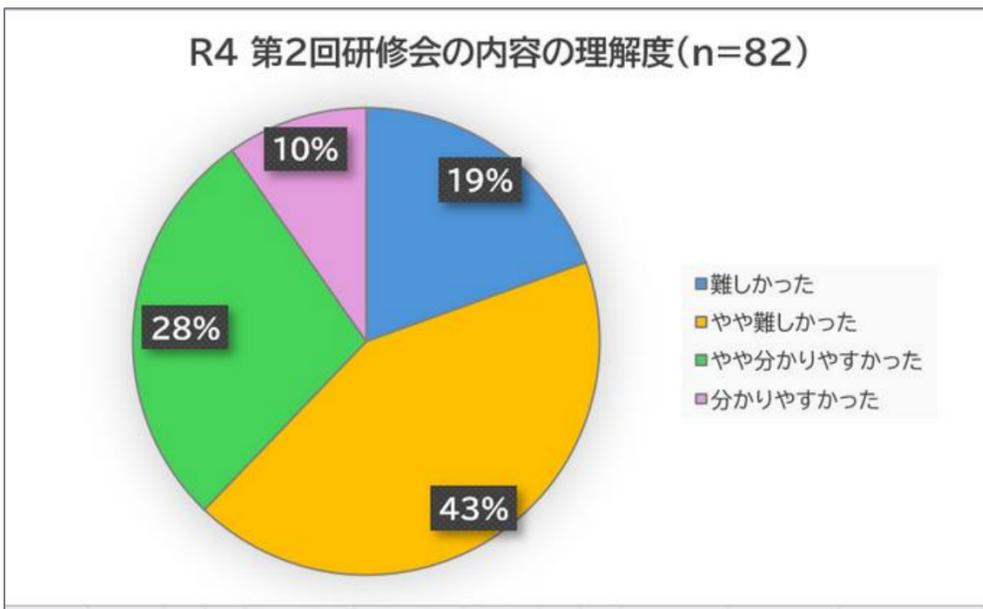
教師向け

4 教師の新領域の認知・理解度はどうなったのか

教師向け校内研修会事後アンケート (R4~R6比較)

研究開発が進むにつれて、研修会に参加した
職員の理解度も上がっていった。

- ### 校内研修会の内容
- ・ 開発制度について
 - ・ 私の時間の概要
 - ・ 今年度の研究
 - ・ テーマに応じた協議
 - ・ グループワーク



やや分かりやすかった
分かりやすかった

38%

やや分かりやすかった
分かりやすかった

79%

やや分かりやすかった
分かりやすかった

97%





研究仮説の検証

生徒が、新領域「私の時間」に取り組むことによって、エージェンシーを発揮するために必要な資質・能力の獲得ができるのではないか。



各種アンケート、インタビュー等の結果から、「私の時間」が生徒にとって意義のある学びとなっており、「私の時間」に取り組むことで、「エージェンシーの発揮に必要な資質・能力」が育成できるようになってきていると考える。

カリキュラムとしての有用性の実証



04

これから教育に向けて



04 これから教育に向けて



生徒が自己分析によって自己理解を深め、自分の学びを自己調整しながら資質・能力を育み、周囲との関係性の中で、対象のよりよい未来に向けて主体性を発揮していくための学び



「エージェンシーの発揮」の考え方に基づいた主体性の捉え方

キー・コンピテンシーの構造化、教材の開発（ステカ・Ne!クスト）

具体的な学習活動と授業改善の視点

特別支援学校だけでなく、幅広い学校種で般化できるのではないかと



04 これから教育に向けて

✔ これまでの既存の教科・領域を往還できるように繋ぐことで
横断的な学び、連続性のある学びの実現

➤ **新領域として新しく設置することの意義**

①対話を通して自分で目標を立てて、振り返る機会が保障できる

よりそれぞれの教科・領域で資質・能力の育成を推進

②多様な対象と協働できる機会を創ることができる

こうした学習の機会を、どう教育課程に位置づけていくか（検討材料に）



04 これから教育に向けて

✔ 対話を通じた学び合い、協働的な学びの必要性

➤ **Co-Agency***の育成に繋がる学び

自分と周囲のよりよい未来・ウェルビーイングに向けて

双方向的に支え合い、学び合い、高めあうことで

生徒の「学びっぱなし」教師の「教えっぱなし」にしない

生徒の主体性な学習を支援する教師の資質・能力と専門性の重視



* Co-Agency : 親や教師、コミュニティ、生徒同士の相互作用的、相互に支援し合うような関係性であって、共通の目標に向かう生徒の成長を支えるもの

(白井俊, OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来, 2020)

参考・引用文献

* 文部科学省.“第4期教育振興基本計画”.文部科学省.2023-6-16. https://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/index.htm (参照2024-11-13)

* 文部科学省.“「令和の日本型学校教育」の構築を目指して”.文部科学省.2021-1-26.

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm (参照2024-11-13)

* 日本財団.“日本財団18歳意識調査結果 第62回テーマ「国や社会に対する意識調査（6カ国調査）」.日本財団.

2024-4-3.<https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/pr/2024/20240403-100595.html> (参照2024-11-13)

* OECD.“the OECD Learning Compass2030.OECD.2024-6-24”.

<https://www.oecd.org/en/data/tools/oecd-learning-compass-2030.html> (参照2024-11-13)

* 白井俊,OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来,ミネルヴァ書房,2020,256p



ご視聴ありがとうございました。

各SNSのフォローをお願いいたします！
お近くにお寄りの際は是非遊びに来てください！



学校公式HP



学校公式
Instagram



研究推進部
Facebook

